霧島市に地域日本語教育の拠点を作るために

きりしまにほんごきょうしつ　本田　佐也佳

基本情報

年間活動の概要

5月28日　団体設立のための会議　設立時6名
定例ミーティング　合計11回実施（対面１０回・オンライン１回）
6月4日～10月１日
霧島市国際交流協会主催「外国人のための生活文化等講座」全５回
鎌田建設にて 日本語サポーターとして参加
9月 Facebook配信開始・公式LINE配信開始　日本人向け・外国人向け
10月 20日　第１回　カンバセーションナイト開催
11月 14日　FMきりしま　よいやんせ霧島出演
16日　第２回　カンバセーションナイト開催
12月 11日　第３回　カンバセーションナイト開催
15日　霧島市市民活動支援事業に申請
19日「外国人のための生活文化等講座」担当職員への
「やさしい日本語で外国人に説明するには」講座の実施
（市役所職員・ 消防局・警察署）

2022年12月末日　正会員10名　　公式LINE登録者数　76名

2022年12月末

正会員　10名
内訳
R3年度日本語サポーター養成講座受講者
（霧島市国際交流協会主催）
６名うち日本語教師１名

サポーター養成講座未受講者　４名
詳細
日本語をボランティアで教えている　2名
日本語教師資格保有・実戦経験無　１名
日本語教師養成講座受講予定者　1名

賛助会員・賛助企業
現在募集中

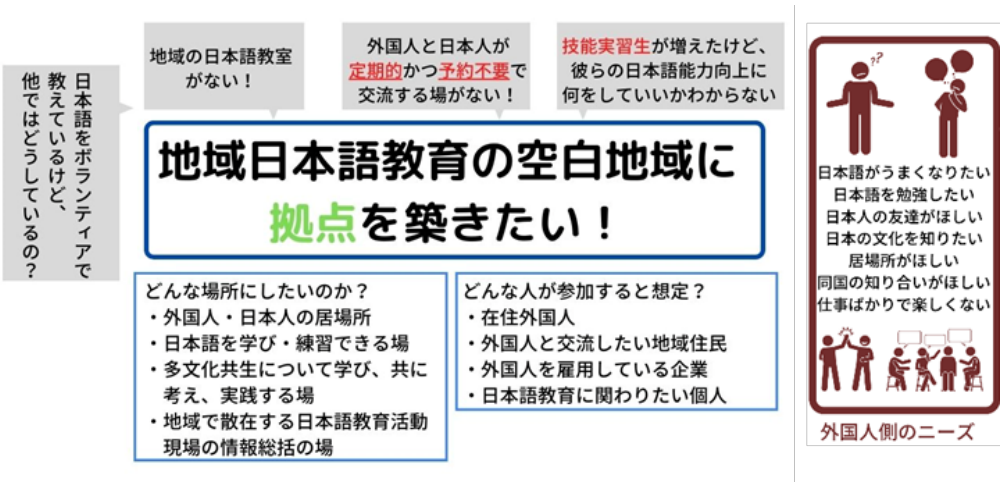
NPO法人化に向けた活動へ
スタッフを集めるときに注意していること

設立時　６名（日本語サポーター養成講座受講生）
2022年12月末　10名
スタッフが参加を呼び掛けて参加した人　３名
カンバセーションナイトの参加から声をかけた人　１名

定期的な活動は不可、イベント時のボランティアは可
受付の仕事後に活動に参加している

課題
・退職後（６０代）の方が多いので、活動継続のために若い世代を取り込めるようにすること
・ミーティングには子連れでもいいよという雰囲気作り
・オンライン会議をしたが不具合が続出
→対面でのPC講座を先にすること

課題の設定と背景



①地域に開かれた居場所作りを最優先で行い、団体の活動への理解と協力を促進すること
②日本語サポーターとして定期的に活動できる場を持つこと、サポーターの数を増やすこと
③日本語教室の運営は先送りし、散在しているボランティアや日本語教室のネットワーク作りを優先すること
④活動資金を確保するために必要な手段（会員を増やす、賛助企業・個人を増やす、助成金を申請する、委託事業を検討する）

実践した活動

①

カンバセーションナイト

外国人と日本人の日本語での交流会

				新規・リピーター
第１回	10月20日（木）18~20時	33名		22名
第２回	11月16日（水）18~20時	16名		６名・３名
第３回	12月11日（日）14~17時	41名		22名・8名

広報の手段
チラシ・公式LINE・Facebook・クチコミ・FMきりしま

平日夕方の設定にして、授業後・就業後の外国人が集まりやすいようにしたが、１回目は職場の人が車で送迎をしてくれたため多くの参加者が集まったが、２回目以降は送迎がなかったので、集まることが難しくなった。
開催を中心部にしても、遠い所に外国人が点在していると集まりにくい。
また、仕事終わりに行くだけの元気がないなどの声も。
リピーターになってくれる外国人・日本人も出てきた。
日曜日に文化体験イベントをすると、日本人の参加者の世代の幅が広がった。（小学生・高校生）
地域に団体の活動を理解・周知してもらうためのいい機会になった。
活動を通してスタッフになってくれた人がいた。
ボランティアの方がラジオで活動を広報してくださった。

課題
開催場所・オンラインで開催・送迎手段の検討や交渉
日本人参加者だけになったときは勉強会に変更

②

地域で日本語をボランティアで教えてる人達からの相談

・ボランティア不足・高齢化
・JLPT対策以外の授業でボランティアの技能に頼らない教材・内容
・ICTに対応できないボランティアのための教材
・教授法の基礎がわからない
・日本語サポーター養成講座を早く実施してほしい

技能実習生の環境改善のために外部の視線や介入が必要

③

他の地域の取り組みへの見学依頼

宮崎県都城国際交流協会
コロナの影響で2月下旬以以降

④

霧島市国際交流協会主催　外国人のための生活文化等講座 日本語サポーターとして参加

・連携機関との活動　打ち合わせに同行
技能実習生を雇用する企業と市協会・サポーターの日程調整がうまくいかず年内の開催は見送り。2023年3月以降に
・講師担当者に「やさしい日本語講座」を実施
「全然知らないことばかりだった」「講座をする前に聞いてよかった」という声と「講座の準備が大変だ」という声も
外国人対応に対する認識が少しでも広がってよかった

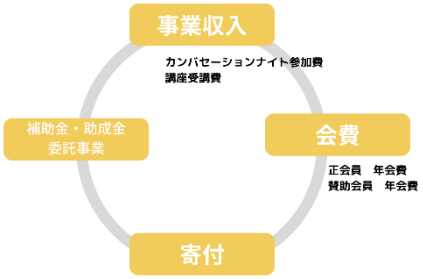
課題
外国人を雇用している企業の担当者向けの「やさしい日本語講座」を併せて実施したほうがいいのではないかという案

⑤

助成金申請（霧島市市民活動支援助成金・赤い羽根福祉基金）

活動の公益性のために高額の参加費や授業料を取れない
助成金や委託業務を得ることが必要
助成金申請により事業計画書や活動報告書などを作成し、
活動を振り返り、来年からの目標を考えるよい機会になった

霧島市民活動支援助成金　1月23日　一次審査通過
2月6日　二次プレゼン審査



実践できなかったこと
<u>日本語サポーター養成講座の開講・実施</u>
場所と予算の確保が困難に
受講料をとる活動は公民館などが使用不可
会場の確保と使用料だけでかなりの金額に
他の活動との調整も難しかった
助成金の目途を見て開講準備を進めていく予定
スタッフ内・他団体のボランティアからも
早く開催してほしいという意見が続出
できるだけ早い段階で実施したいと考えている

地域日本語教育コーディネーターとして活動することとは何か　実践活動を通して考えたこと

① 活動の場を設ける
② 広報・周知により認知の拡大を図る
③ スタッフやボランティアのスキルアップを行う
④ 関係機関と連携して、必要な支援について協議する
⑤ 新しい取り組みや類似の活動事例について情報収集を行う
⑥ 外国人やボランティアの相談を聞き、助言や今後の対応について意見を集約する
⑦ 活動資金を得るために、助成金や委託事業について検討し、申請する
⑧ 活動を可視化し、ビジョンを明確にする
⑨ スタッフのモチベーションを維持するための取り組みの計画と継続

研修前の計画とは、実践活動を進める中で大きな変更があり、活動拠点を設け、外国人や外国人の対応をしている企業や個人、活動に興味のある人達がアクセスできることを最優先とした。

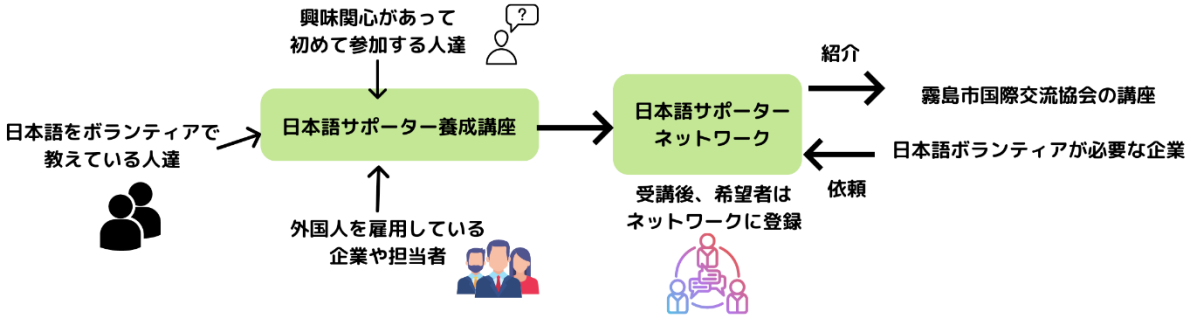
月１回のカンバセーションナイトの開催により、活動に賛同してくれる仲間が増えたこと、「相談したいことがある」という問い合わせがあったこと、「土日など子供が参加できるイベントなら行きたい」などという意見が寄せられたことなど、着実な変化があった。

活動のコーディネーションだけではなく、人・企業・地域などのつながりをどう生むのか、抱えている問題は何か、優先するべきことは何かなど具体的な道筋を立てていくことが大事だと考えた。

また、スタッフが私と含め無償であることからも、継続した動機付けとなるためにも、ビジョンの共有や活動への自由な参加、無理のない範囲での役割の負担、学びの場の提供を続けていく予定である。

今後の活動予定と課題

① 日本語サポーター養成講座の開講　→様々な世代に関わってもらえるように時間帯や週末を活用
② 日本語サポーターのネットワーク作り　→　ネットワークをどのように作り活用するかが課題



③ 日本語サポーター向け　ICT 対応の講座や講習を実施　→オンライン対応はコロナだけではなく、山間部など中心部以外の地域の支援のためにも必要
④ 定期的なカンバセーションナイトの開催　→　継続して参加したい外国人とその支援をしたい日本人が少しずつ増えてきている
⑤ 窓口になる連絡先の確保や SNS などの活用　→　電話はアクセスしやすいが固定費の捻出が課題
Facebook と公式 LINE を今後どう活用するか
⑥ 企業や外国人担当者・自治会などへの多文化共生ややさしい日本語の講習の提案と実施
⑦ 外国人が活動に主体的に参加・企画・運営ができるような体制づくり